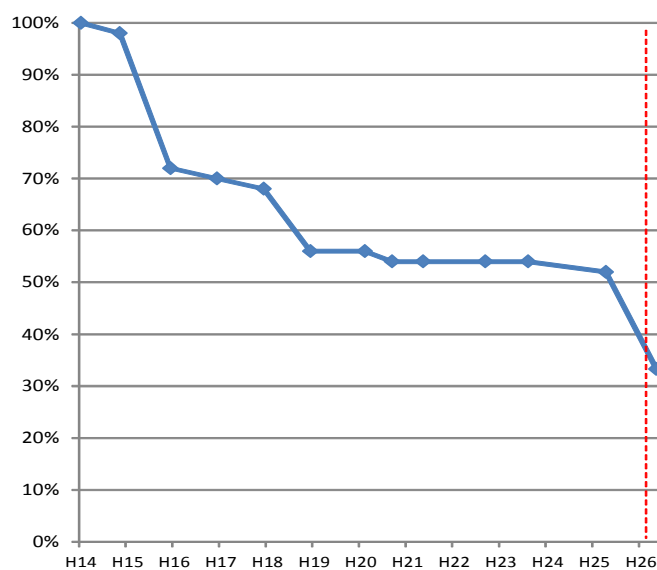


樹種名	ヒメユズリハ		
科 目	ユズリハ科		
学 名	<i>Daphniphyllum teijsmannii</i>		
分 布	本州中南部、四国、九州、沖縄の他、外国では台湾、朝鮮半島に分布する。海岸付近に多く、トベラやウバメガシと共に海岸林の重要な構成樹種である。		
樹木特性	半陰樹であり、海岸部などの比較的標高が低いところに生育する。		
用 途	庭木、公園樹、街路樹として利用。 葉は正月飾りとして利用。	  	
植栽本数 (植栽密度)	150 本 (他樹種との混植)		
特 徴	【樹 形】 常緑小高木で樹高は 8m 程度となる。枝先に葉を束生する。葉は楕円形で革質、特に若いときにごくあらい鋸歯を見せることがある。 葉柄は長く、葉の付け根で少し曲がる。 雌雄異株で花期は 5 月頃薄黄色の葯だけを葉脇に多数付けて花序を成す。葯が破れると花粉が出るが、その時に葯は紫褐色となる。 雌株は、房状に青緑色の球形の小さな実をぶら下げ、秋に黒熟し表面が粉をふいたように白くなる。 果実にはアルカロイドが含まれ中毒症状を起こすので食べられない。同属のユズリハ（譲り葉）より全体的に小さい。また、葉柄がきれいな赤に色づかない。		
試験地での様子	普通苗を植栽し、植栽後 2 年目で 3 割以上が枯死し、その後枯死が増え続けた。原因は特定できなかった。		
被 害	鹿の嫌いな植物であるとされ、食害等の被害は見られない。		

ヒメユズリハ 現存率



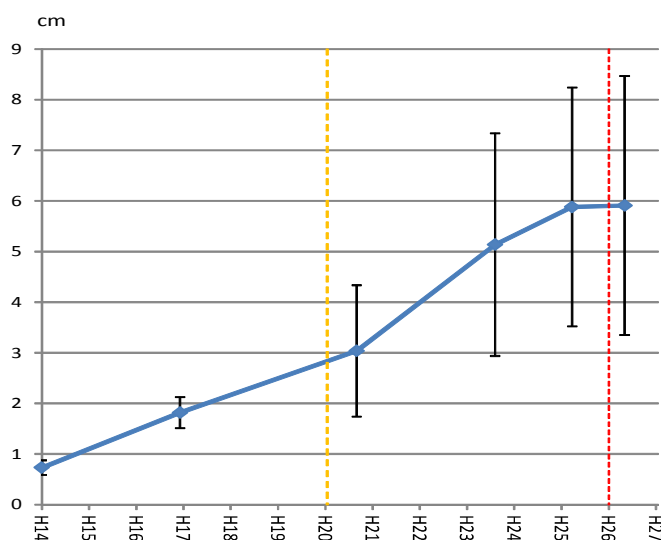
【現存率】

植栽後の2年目で3割以上が枯死したため平成16年度に補植(6本)し、その後枯死が増加傾向にあったが、平成20年度以降の枯死は見られない。なお、枯死の原因については特定できなかった。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は33.3%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更のため、データの連続性はない。

ヒメユズリハ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

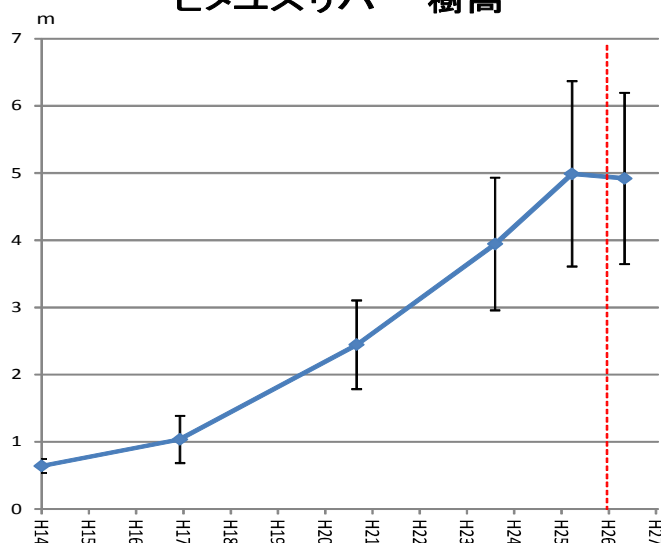
現存木は順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は、5.91 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ヒメユズリハ 樹高



【樹 高】

現存木は順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は、4.92mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

《プチ情報》

春、新葉が出ると古葉が落葉する様子が、席を譲るように見えることから命名された。